

令和二年 春の課題作文・読書感想文

〈塾長講評〉

昨年度より作文コンテストは、小学生対象の読書感想文・中学生対象の課題作文と分けて実施しています。最近の入試傾向を踏まえて課題作文の課題に小学生にとっては未習のグラフや表の読み取りを含めるようになったからです。本であっても課題文であっても、それから読み取れたこと、学べたこと、そして自分の立場に置き直して考えてみたことなどを文章で表現できるようにしていくことは本当に大切です。

今回の中学生対象の課題文は新型コロナウイルス感染拡大の流れの中にあっただきごとを題材に、結びつく故事成語を紹介する内容とし、課題としてグラフの読み取りと自分の経験や考えを任意の故事成語に絡めて論じることを求めました。その結果、たまにたまなのでしょうが「雨だれ石を穿つ」を選択した作品が圧倒的に多かったです。多様性が求められる時代ですので、経験の幅をぜひ多方面に広げて欲しいと感じました。

さて、優秀作品の紹介です。まず小学生の金賞受賞作品ですが、一つは「私の苦手な女の子」という本の読書感想文でした。読書を通じて自分自身の経験を振り返っていき、自分自身がどうあるべきかを力強く表現していました。もう一つの作品は「世界から

猫が消えたなら」という本の読書感想文でした。何かを手に入れようとするとか何かを犠牲にしななければならないということ、そして「プレゼントは物そのものよりも相手の気持ち嬉しいのだ」という主張が心に響きました。

次に中学生の金賞受賞作品についてです。自分の経験ではなく社会的な事象に目を向けて「終身路を譲るも百歩を枉げず」という故事成語に結びつけて論じていました。最後のまとめで課題文の中で紹介されているできごとにより再びつなげていった点が秀逸でした。

他にも「人は何のために生き、そして死ぬのか」という大きなテーマで論じた作品、ミステリー小説を読む醍醐味が伝わってくる作品、日々の腹筋やストレッチを「雨だれ石を穿つ」の雨だれに例えた作品、課題文で採り上げたホテルの代表者の想いを自分の経験に重ね合わせて想像し、故事成語ではないものの「率先垂範」という四字熟語につなげた作品が印象に残っています。

公開される優秀作品をぜひ読んでみてください。良い作文に触れて参考にしていくことも作文力を向上させる一助となります。また、皆さんの作文は講師が添削した上で返却されていくのでそのアドバイスも活かしてください。そして、秋の作文コンテストで今よりも良い作文を書けるようにして欲しいと強く願っています。